



地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

第2回幹事会を参議院議員会館で開催 「郡山りよう応援活動の具体的推進を決定」

5月21日第2回幹事会を村田享子議員のお力添えにより参議院議員会館で開催しました。



- 冒頭大山会長が次の5点を中心に挨拶を行いました。
- ① 三つの補欠選挙で立憲が全勝した。明らかに政治の流れが変わってきている。この流れを解散・総選挙、参院選「郡山りよう」必勝の取組みに繋げていきたい。
 - ② 介護問題は2割負担の拡大等の「改悪」にストップをかけたが、一方で訪問介護の基本報酬が引き下げられた。地域包括システムの基盤が崩れかねない「改悪」に反対していく。
 - ③ 子ども子育て支援法の焦点は財源問題。筋の違う医療保険からの上乗せ徴収に反対は反対である。
 - ④ 本年12月2日をもって既

存の健康保険証を廃止する動きになってきている。マイナ保険証については弊害や問題点が解決されていない。最後まで反対の取組みを継続する。

⑤ 高齢者医療は現役の多大な負担で成り立っている。このことで現役と高齢者の対立・分断を煽る動きがある。政策課題WGの中でこの問題を整理し、大局的な判断・議論が出来る環境をつくっていく。

現役JAMを代表して川野副書記長からは、「2024春闘は、JAM結成以来最高の賃上げとなったが、大手と中小の格差は広がっている。規模間格差の是正と物価に負けない継続的な賃上げが必要。郡山りようの所属政党については政権交代の可能性、基幹労連との連携を勘案し立憲民主党を選択する」との報告を

いただきました。

協議事項では、2025年度活動方針素案については次のような意見が出されました。

地球温暖化は既に限界まで来ている。温暖化、食料危機について労組も本腰を入れて取組むべき/シニア組織拡大について大手組合の一層の協力をお願いしたい/マイナ保険証一元化問題について一層の取組み強化を/平和運動については高齢者も参加しやすい時期に設定を/現役でシニア組織の必要性について今一度議論してもらいたい/政策実現は、現役とシニアが一緒に取り組める唯一無二の活動。ともに活動する中でシニア組織の必要性を理解してもらおう。

村田享子議員の 国政報告を聞く

第2回幹事会に併せて、村田享子JAM準組織内国議員の国政報告会を開催しました。忙しい日程をやりくりし、元気に会場に駆けつけた村田議員より約1時間にわたり、議員活動の報告をいただき、その後活発な質疑応答を行いました。その内容について簡単に紹介します。

～裏面へ続く～

主張



我が家は二階建ての二世帯住宅です。私が二階に、両親が一階に住んでいました。数年前に母親が他界し（父親はその数年前に他界）、私が二階から一階に移り住もうとした時のことです。

台所には食器収納家具が2台もあり、そこには食器がぎっしりと並んでいました。さらに調理台の上の棚にも、食器等が所せましと詰め込まれていました。自分の生活を考えると、ご飯茶碗・お箸・お皿・湯飲みなど、棚2〜3段のスペースがあれば十分です。

そこで一念発起し、現役時代の職場を思い出しなが

私の終活

JAM東京シニアクラブ
事務局長 斧原昭良

ら、我が家の3S（整理・整頓・清掃）運動を開始しました。まずは床に全ての食器を棚から取り出して並べてみました。リビング一部屋では足らず、隣の和室も使う事になってしまいました。めったにお客様が来ないのに、ちよつと見栄えの良い湯飲み・コーヒークップ・お茶碗にお椀・皿・グラスなど5〜6個のセットものが20セットほど出てきました。

さすが「もったいない」精神の昭

和育ちの両親だったと改めて感じました。関心ばかりしていても3Sは進みません。早速、一つずつ紙に包み、段ボール箱に詰めたところ、20箱以上にもなりました。

次は、この段ボール箱を何処に収納するかです。幸い、押し入れやクローゼットがいくつもあり、そこに収納する事にしました。

ところが、その押し入れを開けて見てビックリ。これまた、両親二人分とは思えない程の衣類や布団がドッサリ。昔に流行っていたら洋服、私が小学生になる前の記憶にしかない和服など。今度は、こちらの整理です。食器は利用する機会もありますが、衣類は処分するしかありません。

私の終活の一つとして、明日から我が家の3S運動をしなくては！

へ表面より続く



ている工場向けの電力料金の負担軽減について何度か質問し、今まで支援の対象外だった特別高圧(工場・病院・大規模商業施設等)についても国の支援が受けられることになった。野党でも政策を実現出来ることを実感した。ものづくりを知っている議員は少ない、ものづくりの仲間の議員を増やすため現場出身が強みの郡山りようさんを応援していきたいでしょう。

郡山りよう応援活動スタート!

JAMシニアクラブは、31のすべての地方シニアが郡山りようの推薦を決定しました。来年に向けて、本年7月より具体的な応援活動がスタートします。

参議院では経済産業委員会、決算委員会、消費者問題に関する特別委員会の委員を担当。また立憲民主党では政務調査会長補佐、環境・エネルギーPT事務局次長、青年局事務局長などの役職に就いている。第213通常国会は後半戦に突入し、①能登半島地震の対応②政治とカネ③機能性表示食品問題④法案としては子ども・子育て支援法、民法改正(共同親権問題)などが議論されている。

「郡山りよう」の政治活動を応援し、ご家族、知人、友人にも応援の輪を広げていただくようお願いいたします。ものづくり現場の出身、労働組合役員経験者、そしてPTA等地域活動にも汗をかいた、我々の素晴らしき「後輩」を国政の場に皆で押しあげていきましょう。



広島

定期総会を開催 副代表幹事 川本学



JAM広島シニアクラブは、5月26日、広島県山県郡安芸太田町「いこいの村ひろしま」で出席者21名、JAMシニアクラブから田中副会長をお招きして22名で2024年度総会を開催しました。

冒頭に田中副会長のご挨拶に続き、本総会では24年度活動方針と予算案について審議、さらに井上代表幹事を中心とする新たな役員体制が承認されました。最後に来夏の参院選を全力で取り組む事を確認して終了しました。

中久弥(JAMシニアクラブ副会長)、ホールインワン賞・福田不二夫(日本製鋼所広島支部)、林秀彦(JAM山陽広島県連絡会事務局長)の方々が表彰されました。

京都 政策制度研修会 を主催 通信員 伊藤忠男

6月4日午後、京都労働者総合会館において今年度の政策研修会を「終活を考える(葬儀・相続・墓じまい)」と題し、講師にJAMシニアクラブの福利厚生サービスマン小泉聡さん、NCPグループ営業マネージャー



尾崎晃一郎さんをお招きして各退職者組織から48名が参加し開催しました。今回は「年金・医療・介護」という政策制度とともに各会員にとって、身につまされる「終活」に焦点を当てました。



日頃から漠然とした概念はあるもの、肉親が亡くなった後の預貯金や有価証券、年金などの解約や名義変更、役所への各種届出、相続に関わる肉親を巻き込んだ悩ましい処理事項の数々、墓終いにも行政手続きが必要なことなど、会員の年齢からすると、自分の子供たち

「銀行口座が凍結されたらクレジットの引き落としはどうなるのか」「公正証書の作成費用は」「ほったらかしの墓があるがほっておいても大丈夫か」など質問が相次ぎ関心の高さがうかがえました。

東京 防災センターで 地震を体験 幹事 平木和裕

JAM東京シニアクラブは、街歩きとして5月16日、23名が参加して北区の防災センター「地震の科学館」で地震を体験しました。

の説明を受け4名ずつに分かれ体験ブースに入り、熊本地震、関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災など、過去に起きた大きな地震の震度を起動装置で、震度2から始まり震度7までの揺れを体験し、震度7では、いつ収まるのだろうか、揺れた2分間は非常に長く感じ改めて地震の怖さと家具などの転倒防止策の必要性を感じました。

その後、火災時に煙が充満した部屋を避難する方法や、消火器を使い初期消火訓練も体験しました。また、館内に展示されている過去の大災害や火山の噴火などの写真や室内の転倒防止対策なども見学しました。